

# ～ 先輩からの声 ～



西 森 祐 介

2021年入庁

農林商工部

商工産業課・企業誘致推進室

## 志望動機

大学卒業後、人の役に立つ仕事に就きたいとの思いから、金融を通じて幅広く人の役に立てる銀行に就職しました。しかしながら、営利追求の精神である銀行と自身の考えにギャップが生じはじめたところ、自身の仕事が市民の皆様に帰結する市役所の仕事に魅力を感じました。宇陀市は故郷ではありませんが、母方の実家があることから幼い頃から馴染みがあり第二の故郷であったため、地域発展に貢献したく、志望しました。

## 担当業務

入庁一年目は主に商工・産業の発展に関する仕事を行い、既存の中小企業並びに個人事業主の方々の支援を行ってまいりました。具体的には、補助金申請の受付や市制度融資事務等が挙げられます。入庁半年後からは、企業誘致推進室との兼務となり、市の今後を左右するような政策的な事業に携わることとなりました。具体的には、駅前交流施設整備事業、サテライトオフィス整備事業等を主軸とし、市外からの事業者の誘致に関する業務が挙げられます。

## やりがいについて

商工産業課では、実際に働いてみるまで気付かなかった葉狩りの歴史や特産品・名産品の数々、地域事業者の特性について学び、宇陀市にはこんなにたくさん資源があったんだと思うと同時に今後も時代と共に守り抜いていかないといけないものとして大きな責任感を感じておりました。

企業誘致推進室では、より柔軟な発想が求められ、宇陀市では前例のないものに携わる中で、上司・先輩に支えていただき、非常に学びが多い部署だと感じております。

双方共に定常業務が少ない分、自身の頑張りが市の発展に直結する業務であることに日々やりがいを感じ、従事しております。

## 市職員のイメージは

入庁以前は、役所仕事といえばお堅い仕事をイメージしてまいりました。実際に勤務してみると、柔軟な発想を持っている方が多く、真逆の印象を受けました。しかしながら、法令に則った仕事ばかりを求められる部署も勿論あります。今後キャリアアップしていく中で、広く視野を持つことが重要だと感じました。また、職員の方々は優しい方が多く、分からないことを聞きやすい環境が整っていると身に染みて感じております。

## 受験者に向けて

取り繕った言葉で固めるのではなく、自身の考えを素直にぶつけて面接に挑むことが大事だと思います。緊張してガチガチになっても大丈夫です。面接官の方々は内面をきちんと見てくれています。私も面接を受けた中で、自然体で望んだからこそ今この場にいると思っております。共に働ける日を心待ちにしております！